

エコアクション 21 環境経営レポート

2022 年度 （第 15 期）

（対象期間：2022 年 3 月 1 日～2023 年 2 月 28 日）



〒811-2221 福岡県糟屋郡須恵町旅石 45-2



株式会社 三友金属

2023 年 3 月 20 日 発行

目次

1. 組織の概要	1
2. エコアクション 21 の対象範囲	1
3. 環境経営方針	2
4. エコアクション 21 実施体制	3
5. 環境経営目標	
(1)二酸化炭素排出量のエネルギー別・サイト別排出構造	4
(2)環境経営目標	5
6. 環境経営計画	6
7. 環境経営目標の実施結果とその評価	
(1)環境経営目標の達成状況	7
(2)各目標項目の経年実績変化	8
①二酸化炭素排出量の実績	8
②二酸化炭素排出量の削減	9
③廃棄物排出量の実績	10.11
④水使用量の実績	12
⑤グリーン購入推進の実績	13
⑥化学物質の適正使用・適正管理	13
⑦環境に配慮した自社製品の販売・拡大	14
8. 環境経営計画の取組結果とその評価	15
9. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	16.17
10.その他の環境活動	
(1)太陽光パネルの設置	18.19
(2)緊急避難訓練	20
11. 環境関連法規等の遵守結果	21
12. 代表者による全体評価と見直しの結果	21

1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 三友金属 代表者 遠山 貴広

(2) 所在地

本社・工場 〒811-2221 福岡県糟屋郡須恵町旅石 45-2

緑栄（造園事業部） 〒811-2221 福岡県糟屋郡須恵町 41-1

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 総務部 古賀 裕子 TEL. 092-937-7700 FAX. 092-937-7701

担当者 総務部 小野山 明子 Mail:metal@sanyukinzoku.co.jp

(4) 事業内容

- ・建築資材用スチール、ステンレス、アルミ製品の設計、製作及び販売
- ・建築工事・屋根工事・鋼構造物工事・板金工事・内装仕上工事・建具工事
- ・サイン工事（看板サイン設計・施工）・電気工事・造園工事

(5) 事業の規模

売上額 2022年度（第15期） 9.8億円

区分	本社	工場	緑栄（造園事業部）	合計
従業員	21名	9名	0名	31名
延べ床面積	77 m ²	865 m ²	66 m ²	1,008 m ²

(6) 事業年度 3月～翌年2月

(7) 法人設立年月日 2008年3月

(8) 資本金 5千万円

2. エコアクション21の対象範囲

エコアクション21の対象範囲は、以下のとおりです。

(1) 対象組織 株式会社 三友金属

本社・工場

緑栄（造園事業部）

(2) 対象活動

- ・建築資材用金物設計・製作・販売
- ・建築工事、屋根工事、鋼構造物工事、板金工事、内装仕上工事、建具工事
- ・サイン工事（看板サイン設計・施工）、電気工事、造園工事

(3) 対象外組織 なし（全組織、全活動を対象とする）

3. 環境経営方針

基本理念

株式会社 三友金属は、すべての事業活動、製品から生じる環境への影響を的確に捉え、地球環境との調和・共生を目指します。

また、地球温暖化問題は、次世代にも及ぶ長期的で人類共通の問題であることを十分に認識し、社員一同で未来につながる地球環境づくりに取り組みます。

行動指針

当社では環境経営システムを構築運用し、特に以下の事項について重点的に取り組み、環境経営の継続的改善に努めます。

1. 省エネに努め、二酸化炭素排出量を削減します。
2. 廃棄物排出量の削減とリサイクルに努めます。
3. 節水に努め、水資源の保全に努めます。
4. グリーン購入に努めます。
5. 化学物質を適正に使用・管理します。
6. 環境に配慮した製造、施工に努めます。
7. 当社に適用される環境に関する法規制等を遵守します。
8. 環境への取り組みは、毎年環境経営レポートに取りまとめ、広く外部にも公表します。

制定日 2016年7月29日

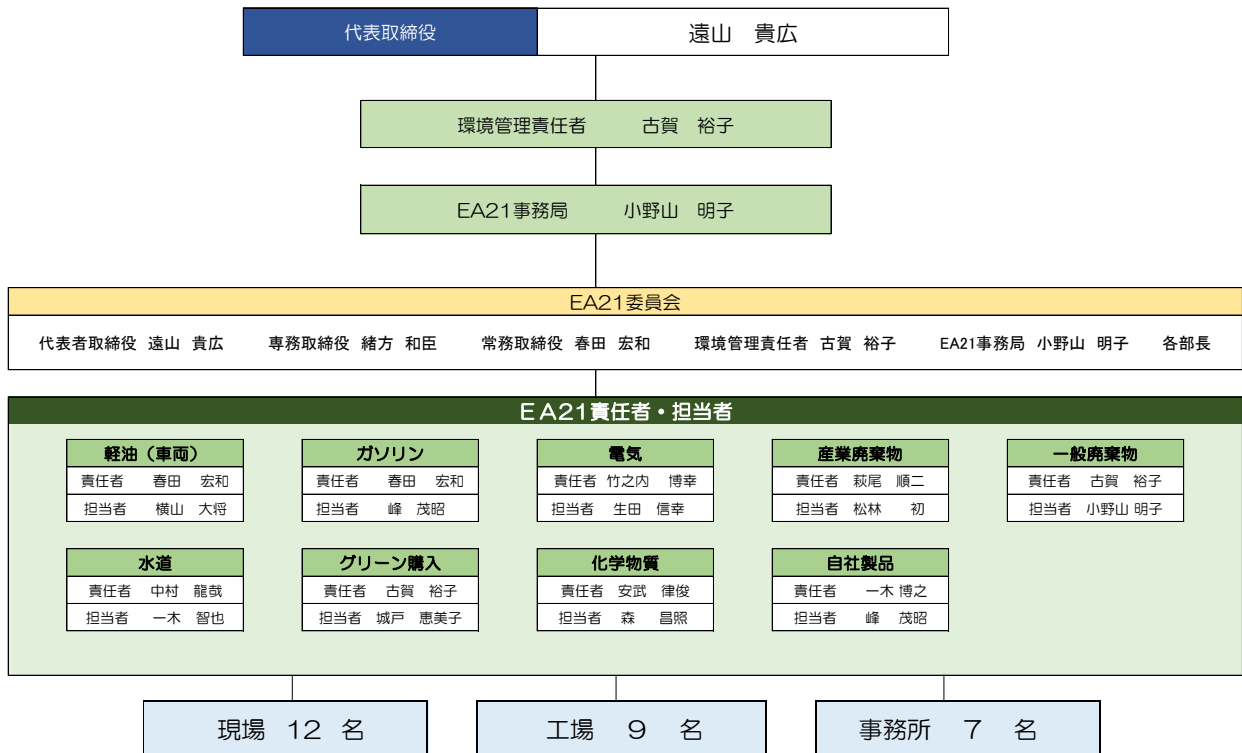


 株式会社 三友金属

代表取締役 遠山 貴広

4. EA21 実施体制

第15期
2022年度・EA21実施体制



環境経営システム 役割・責任・権限表

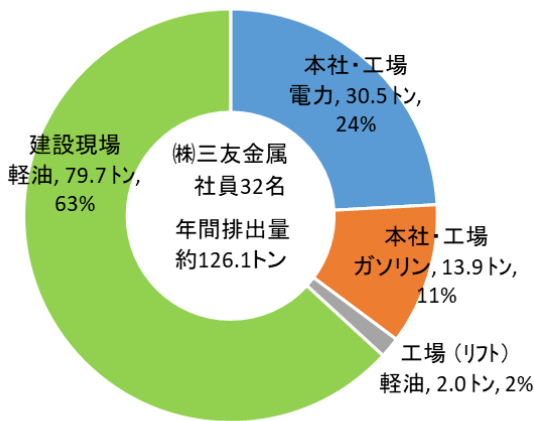
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する責任と権限を持つ。 環境管理責任者を任命する。 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知する。 環境経営目標・環境経営計画書・環境レポートを承認する。 代表者による全体の評価と見直しを実施する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理をする。 環境関連法規等の取りまとめ表を承認する。 毎年環境経営目標・環境経営計画書を作成する。 環境経営活動の取組結果を代表者へ報告する。 環境経営レポートの確認をする。
E A21環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者を補佐し、E A21文書及び記録類、及び基礎データの作成・維持・集計・管理を行う。 環境関連の外部コミュニケーションの窓口として情報の収集と伝達を行う。
E A21委員会	<ul style="list-style-type: none"> 3ヶ月に1回開催し、取組状況を確認するとともに、内容について審議し問題点があれば、必要な是正措置の内容を決定する。
E A21責任者・担当者会議	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画の実施状況を確認する。 建設工事における環境活動を推進する。 自部門に関連する法規制等を遵守する。 E A21委員会開催前に開催し、取組状況を確認するとともに、各部門の実施評価を行い問題点があれば、必要な是正処理の話し合いを行い、E A21委員会に報告をする。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する。 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する。 問題点をE A21責任者・担当者会議に投げかける。

5. 環境経営目標

(1) 二酸化炭素排出量のエネルギー別・サイト別排出構造

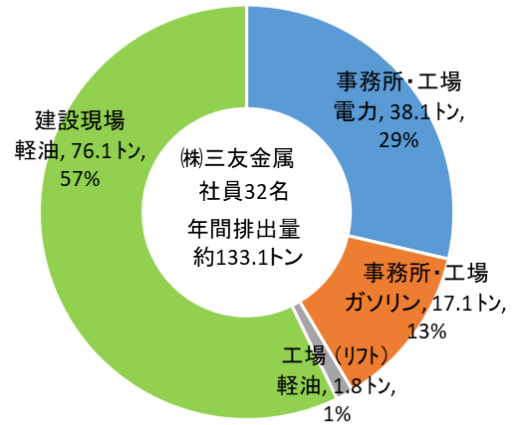
- ・弊社の二酸化炭素排出量を用途別でグラフ化すると次のようになります。
- ・毎年同じような割合ですが、主に二酸化炭素が排出されているのは、建設現場の移動手段で使用する工事用車両の軽油です。現場数が多く、毎年全体の7割程度占めます。最短距離での往復や、相乗り工夫を凝らしていますが、なかなか削減できない状況です。
- ・前年度に比べると、営業車を電気自動車に移行したことでガソリンの二酸化炭素排出量が減りましたが、電力の二酸化炭素排出量が約6%増加してしまいました。
- ・また工場内で使用するリフトも1台から2台に増えましたが、バッテリーフォークリフトに変えた事で、軽油の使用はなくなりましたが、電力の使用が増えています。

2019年度 二酸化炭素排出量 [トン]



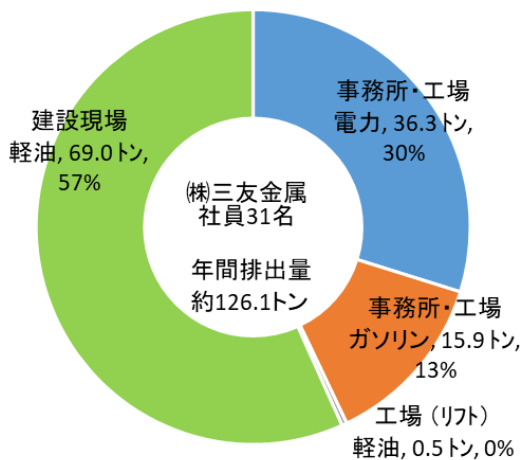
社員一人当たりの二酸化炭素年間排出量 約 3.84トン

2020年度 二酸化炭素排出量 [トン]



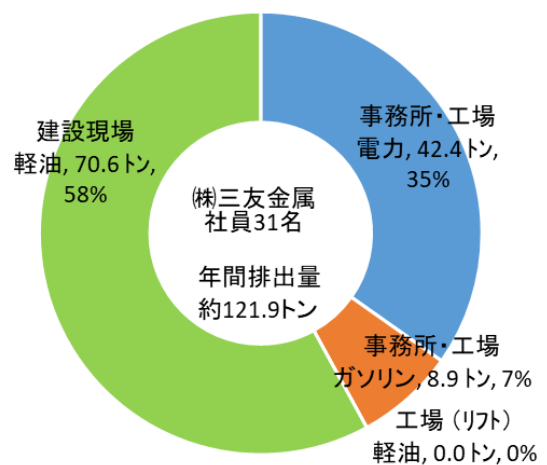
社員一人当たりの二酸化炭素年間排出量 約 4.1トン

2021年 二酸化炭素排出量 [トン]



社員一人当たりの二酸化炭素年間排出量 約 4トン

2022年 二酸化炭素排出量 [トン]



社員一人当たりの二酸化炭素年間排出量 約 3.92トン

(2) 環境経営目標

- ・環境経営目標は、以下の6項目13目標を設定し、2020年度を基準年とし、サイト区分（事務所・工場、建設現場、全社）として単年度目標、中長期目標を設定しました。
- ・弊社は設計から製造、施工まで一貫性を持って工事を請け負うため、二酸化炭素排出量が売上に大きく左右するので二酸化炭素排出量の削減目標は、2020年度の基準年の売上と各年度の売上見込みの比率で補正し設定しました。

$$\text{※二酸化炭素排出量の削減目標} = \text{基準年実績値} \times \text{削減率} \times \text{売上補正} \left(\frac{\text{当該年度の売上見込}}{\text{基準年売上}} \right)$$

環境経営目標(2022年度・15期)

環境経営目標	サイト区分	単位	基準年	単年度目標	中長期間目標		
			2020年度 (2020.3~2021.2)	2022年度 (2022.3~2023.2)	2023年度 (2023.3~2024.2)	2024年度 (2024.3~2025.2)	2025年度 (2025.3~2026.2)
※は売上増加倍数(当社の事業計画に基づく)			基準	1.23倍	※1.29倍	※1.35倍	※1.41倍
1.二酸化炭素排出量の削減	事務所・工場	kg-CO ₂	56,833	69,389 (△2%)	72,033 (△3%)	74,605 (△4%)	77,107 (△5%)
	建設現場	kg-CO ₂	74,773	90,132 (△2%)	93,563 (△3%)	96,907 (△4%)	100,158 (△5%)
	全社合計	kg-CO ₂	131,606	159,521	165,596	171,512	177,265
(1)軽油使用量の削減	事務所・工場	L	696	839 (△2%)	871 (△3%)	902 (△4%)	932 (△5%)
	建設現場	L	28,982	34,935 (△2%)	36,265 (△3%)	37,561 (△4%)	38,821 (△5%)
(2)ガソリン使用量の削減	事務所・工場	L	7,368	8,881 (△2%)	9,220 (△3%)	9,549 (△4%)	9,869 (△5%)
(3)電気使用量の削減	事務所・工場	kWh	96,690	116,550 (△2%)	120,988 (△3%)	125,310 (△4%)	129,516 (△5%)
2.廃棄物排出量の削減							
(1)一般廃棄物排出量の削減 (その他可燃ごみ)	事務所・工場	t	1.67	1.64 (△2%)	1.62 (△3%)	1.60 (△4%)	1.59 (△5%)
(2)産業廃棄物のリサイクル率向上	工場 建設現場	%	83.9	85	85	85	85
3 水使用量の削減	事務所・工場	m ³	309	306 (△2%)	303 (△3%)	300 (△4%)	297 (△5%)
4 グリーン購入の推進(購入金額の割合)	事務所	%	61.0	62	62	62	62
5 化学物質の適正使用・適正管理	工場	kg	適正使用・適正管理に努めます				
6 環境に配慮した自社製品の販売・拡大	事務所・工場	受注件数	215	219	221	224	226

備考) ①二酸化炭素排出量計算における購入電力の排出係数は、大和ハウス工業㈱の2019年度調整後排出係数(0.400kg-CO₂/kWh)を用いた。

また、目標値は基準年売上に対する当該年度売上比率で補正しています。

②()は基準年に対する削減率を示す。

③電気及び水の使用量は、メーターが事務所・工場と同一の為、「事務所・工場」で目標を設定した。

6. 環境経営計画

・環境経営目標達成のために、以下の具体的活動項目を定め、全社員で取り組みました。

2022年度 環境活動計画

作成日	改訂日	承認者	作成者
平成28年8月10日	平成31年3月19日	春田	古賀

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	サイト区分	責任者	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 軽油使用量の削減	建設現場	春田	1 車内の整理整頓を行い、軽量化に努める。	横山	年間を通して
			2 タイヤの空気圧を定期的に確認する。		年間を通して
			3 車両点検をこまめに行いスムーズな運転を心掛ける。		年間を通して
(2) ガソリン使用量の削減	事務所・工場	春田	1 段取りの良い打合せにて、無駄な行動をしない。	峰	年間を通して
			2 急発進・急加速を行わない。		年間を通して
			3 タイヤの空気圧を定期的に確認する。		年間を通して
(3) 電気使用量の削減	事務所・工場	竹之内	1 室温は「夏25～28度」「冬20～26度」の範囲で、適宜過剰にならないように努める。	生田	冷房時期（6月～9月） 暖房時期（12月～3月）
			2 休憩室・トイレなどの電灯は使用時のみ稼働させる。		年間を通して
			3 電気機器は設定を見直し、適切な値の元取り扱う。		年間を通して
			4 パソコンのスリープ・主電源OFFは条件を明確にし、意識して行う。		年間を通して
			5 フォークリフトの急発進・急加速を行わない。		遠山

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標	サイト区分	責任者	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 一般廃棄物排出量の削減 (その他可燃ごみ)	事務所・工場	古賀	1 分別の徹底によるゴミの減量。	小野山	年間を通して
			2 消耗品は詰め替え・補充ができる製品を優先する。		年間を通して
(2) 産業廃棄物のリサイクル率向上 (リサイクル率85%)	工場 建設現場	萩尾	1 現場での産業廃棄物分別作業を協力会社を含めて徹底し、混合廃棄物ゼロを目指す。	松林 野澤	年間を通して
			2 収集時での分別の確認と報告を徹底する。		年間を通して

3. 水使用量の削減

取組目標	サイト区分	責任者	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 水使用量の削減	事務所・工場	中村 (龍)	1 水の使用場所には節水シールを貼り、節水に心がける。	一木 (智)	年間を通して
			2 水漏れ等見つけた場合は早急に周知・処置する。		年間を通して

4. グリーン購入の推進

取組目標	サイト区分	責任者	活動項目	担当者	スケジュール
(1) グリーン購入の推進	事務所	古賀	1 エコ商品の対象商品を積極的に取り入れる。	城戸	年間を通して
			2 エコ商品の購入金額を記録。		年間を通して

5. 化学物質の適正使用・適正管理

取組目標	サイト区分	責任者	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 化学物質の適正使用 と適正管理	工場	安武	1 各薬品を適切に管理し、無駄な購入、使用を減らす。	森	年間を通して
			2 使用者に対してSDSの使用上の注意を厳守させる。		年間を通して

6. 環境に配慮した自社製品の販売・拡大

取組目標	サイト区分	責任者	活動項目	担当者	スケジュール
(1) 環境に配慮した 自社製品の販売・拡大	事務所・工場	一木	1 ホームページの商品紹介を拡充させる。	峰	年間を通して
			2 得意先・仕入先を開拓していく。		年間を通して

7. 環境経営目標の実施結果とその評価

(1) 環境経営目標の達成状況

- ・2022年度における環境経営目標の達成状況は以下のとおりです。
- ・設定した6項目13目標のうち、5項目11目標で目標を達成できました。
- ・水使用量は目標達成率が83%で更に対策が必要です。

環境目標	サイト区分	単位	基準年	2022年度 (2022年3月～2023年2月)		目標達成率	目標達成判定	
			2020年度 (R2.3～R4.2) 実績値	目標値	実績値			
二酸化炭素排出量の削減	事務所・工場	kg-CO ₂	56,833	69,389	51,223	135%	○	
	建設現場	kg-CO ₂	74,773	90,131	70,613	128%	○	
	全社合計	kg-CO ₂	131,606	159,521	121,836	131%	○	
1	(1)軽油使用量の削減	工場	L	696	839	-	0.0%	-
		建設現場	L	28,982	34,935	27,369	128%	○
	(2)ガソリン使用量の削減	事務所・工場	L	7,368	8,881	3,815	233%	○
	(3)電気使用量の削減	事務所・工場	kWh	96,690	116,550	105,933	110%	○
環境目標	サイト区分	単位	基準年 2020年度 (R2.3～R4.2) 実績値	2022年度 (2022年3月～2023年2月)		目標達成率	目標達成判定	
廃棄物排出量の削減								
2	(1)一般廃棄物排出量の削減 (その他可燃ごみ)	事務所・工場	kg	1,673	1,640	1,739	94%	△
	(2)産業廃棄物のリサイクル率向上	工場 建設現場	%	83.9	85	107	126%	○
3	水使用量の削減	事務所・工場	m ³	309	303	366	83%	×
4	グリーン購入の推進 (購入金額の割合)	事務所	%	61	62	77	125%	○
5	化学物質の適正使用・適正管理	工場	kg	化学物質の適正使用量・適正管理に努めます				○
6	環境に配慮した自社製品の販売・拡大	事務所・工場	件 (受注件数)	215	219	253	116%	○

備考) ・二酸化炭素排出量計算における購入電力の排出係数は、大和ハウス工業㈱の2019年度調整後排出係数 (0.4kg-CO₂/kWh) を用いた。

- ・目標達成率の算定方法 削減目標の場合：目標値/実績値×100 [%]
増加目標の場合：実績値/目標値×100 [%]

- ・目標達成判定の区分定義：
 - ・・・目標達成率≥100%
 - △・・・100>目標達成率≥90
 - ×・・・目標達成率<90

(2)各目標項目の経年実績変化

①二酸化炭素排出量の実績(経年)

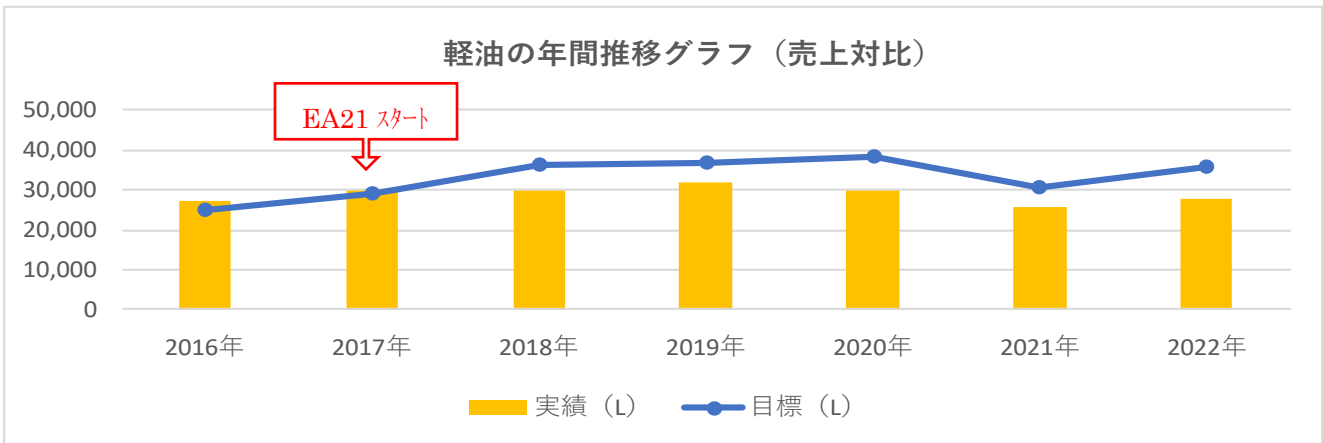
A. 軽油使用量の削減(サイト:全体)

- ・事務所・工場での軽油使用はリフトの燃料でしたが、
バッテリーフォークリフトに移行した為、現在は使用していません。
そのため、軽油の消費は削減できています。
- ・建設現場での軽油使用は、ハイエース(6台)やトラック(5台)の燃料です。
- ・現場への移動距離などが大きく影響しますが、荷物の積載量に係る車内の整理整頓や
不要な荷物の削減等の取り組んでいます。



軽油の年間推移グラフ(売上対比)

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
目標(L)	25,128	29,203	36,403	36,820	38,240	30,445	35,774
実績(L)	27,114	30,069	29,994	31,694	29,678	25,554	27,639

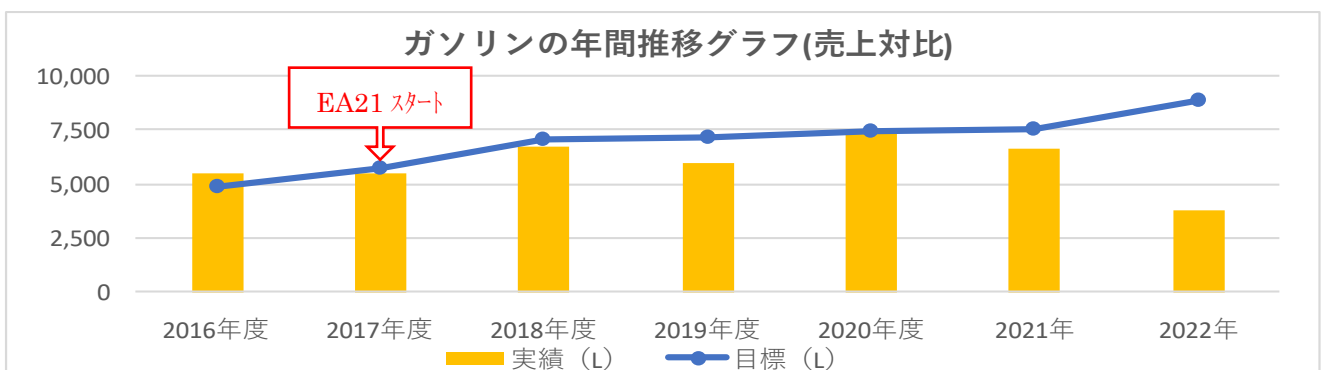


B. ガソリン使用量の削減(サイト:全体)

- ・ガソリンにおいては営業車(プリウス他)2台分の燃料です。
- ・昨年と比べると電気自動車に移行した為、ガソリン使用量も大幅に減少しています。
- ・今後も打合せの回数を減らすなど取り組みを継続していきます。

ガソリンの年間推移グラフ(売上対比)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年	2022年
目標(L)	4,889	5,681	7,081	7,164	7,447	7,558	8,881
実績(L)	5,530	5,519	6,711	6,004	7,368	6,603	3,815

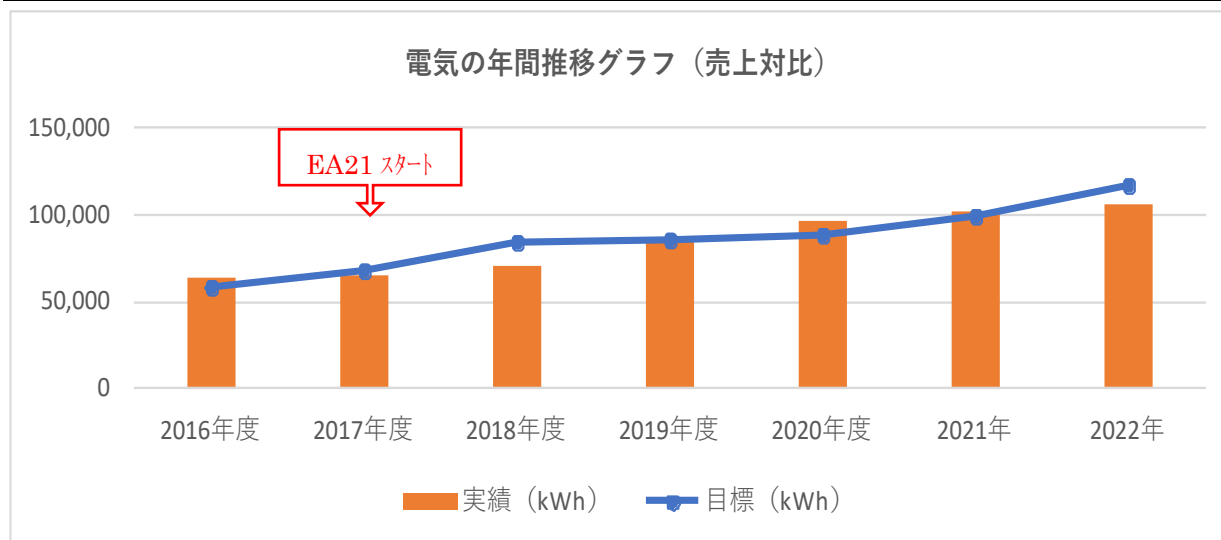


C. 電気使用量の削減(サイト:全体)

- ・電気の使用量は、フォークリフトや営業車を電気使用に移行したが、目標を達成できませんでした。
- ・売上対比にしなくとも、達成できるようにしていきたいです。

電気の年間推移グラフ (売上対比)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年	2022年
目標 (kWh)	57,557	66,885	83,366	84,327	87,651	99,189	116,550
実績 (kWh)	63,606	65,368	70,009	85,080	96,690	101,393	105,933



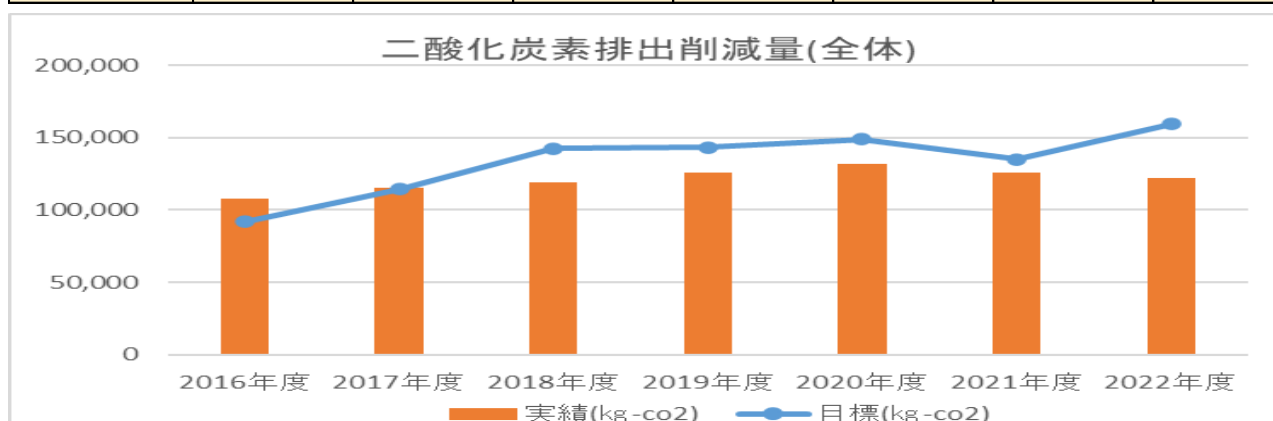
②二酸化炭素排出量の削減(サイト：全体)

2017年にエコアクション21の取組を開始し、少しずつですが取組の結果がでてきているように思えます。弊社では一番エネルギー排出量の多い軽油削減により一層力を入れていきます。

二酸化炭素排出量年間推移グラフ(売上対比)

①二酸化炭素排出削減量 (全体)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
目標(kg - co ₂)	91,954	114,511	142,552	143,456	149,111	135,006	159,521
実績(kg - co ₂)	108,226	115,126	119,249	126,151	131,606	125,991	121,836



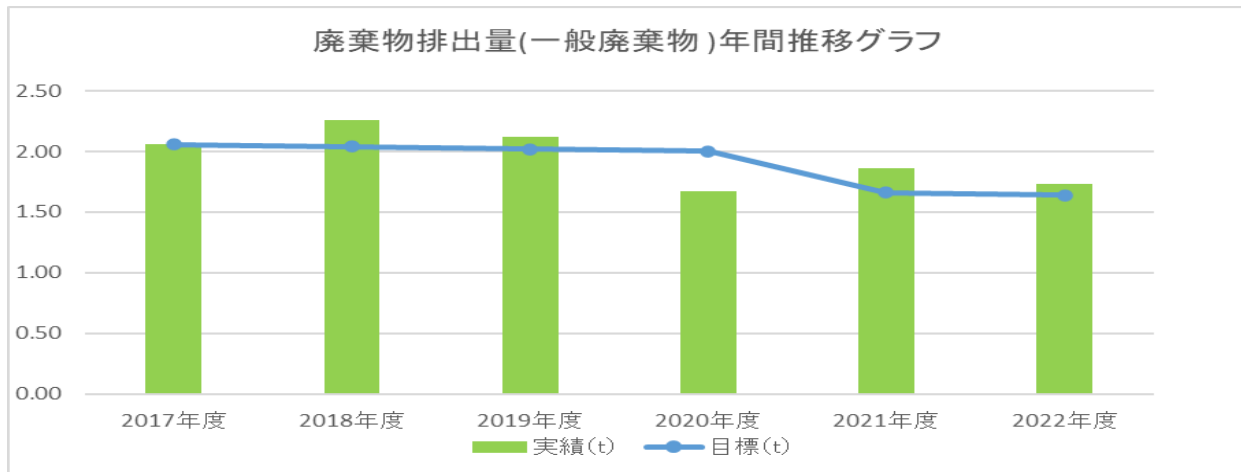
③廃棄物排出量の実績(全体)

(1) 廃棄物排出量

本年度は、一般廃棄物の排出量は目標を達成できませんでした。
引き続き、一般廃棄物の集計をし、更に削減できるよう取り組みたいと思います。

廃棄物排出量(一般廃棄物)年間推移グラフ

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
目標(t)	2.06	2.04	2.02	2.00	1.66	1.64
実績(t)	2.06	2.26	2.12	1.67	1.86	1.73

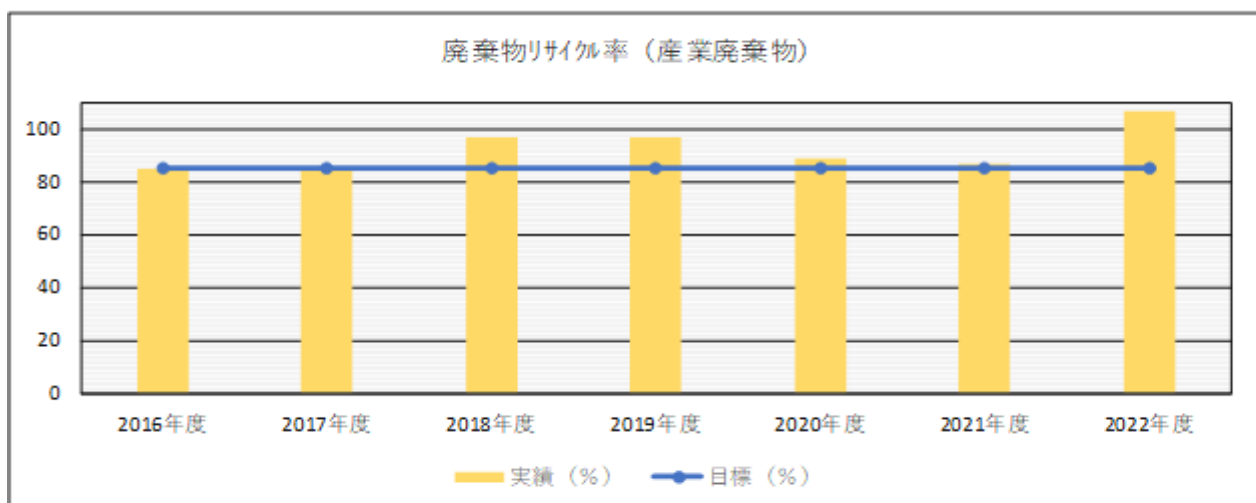


(2) 廃棄物排出量(産業廃棄物)

産業廃棄物の分別は定着しつつあり、リサイクル率も伸びています。

廃棄物リサイクル率(産業廃棄物)の年間推移グラフ

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
目標(%)	85	85	85	85	85	85	85
実績(%)	85	85	97	97	89	87	107



Reduce (排出抑制)
Reuse (再利用)
Recycle (再生利用)

の3Rを心掛けていきます。



ゴミの分別表もSDGSを盛り込んだ看板にしました。

分別も更に細分化できるようゴミ箱等の設置も行い社内全体で取り組んでいます。

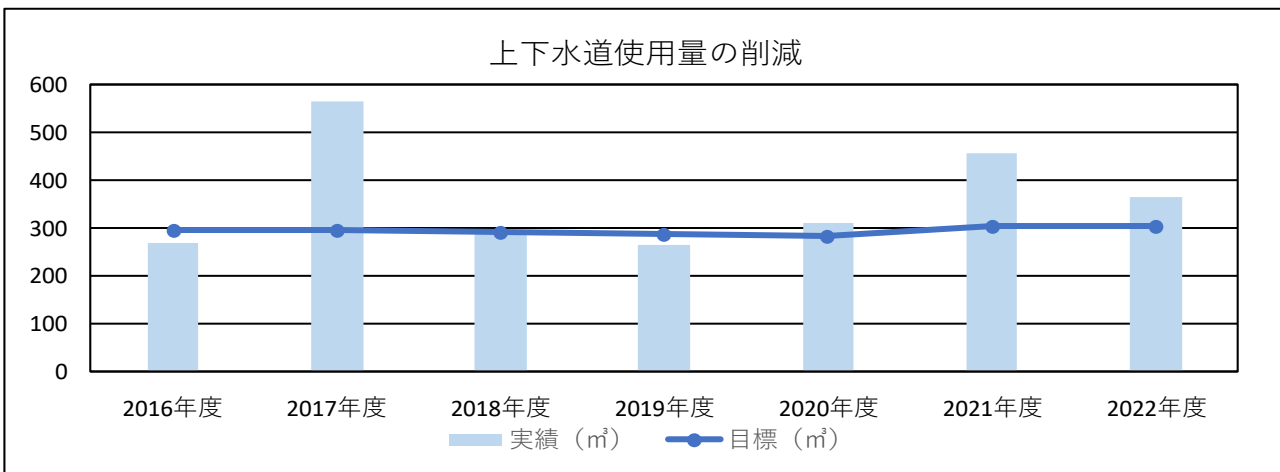


④水使用量の実績(事務所・工場)

- ・水の使用量は、目標達成できませんでした。
- ※2017年度のグラフが突出している原因は、普段使わない水道栓の漏れに気づかなかった為です。
- ※2021年度は立体駐車場施工の際、水道管破損のため使用量が大幅に増加しています。

上下水道使用量の年間推移グラフ

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
目標 (m ³)	297	294	291	288	285	306	303
実績 (m ³)	267	567	294	264	309	456	366

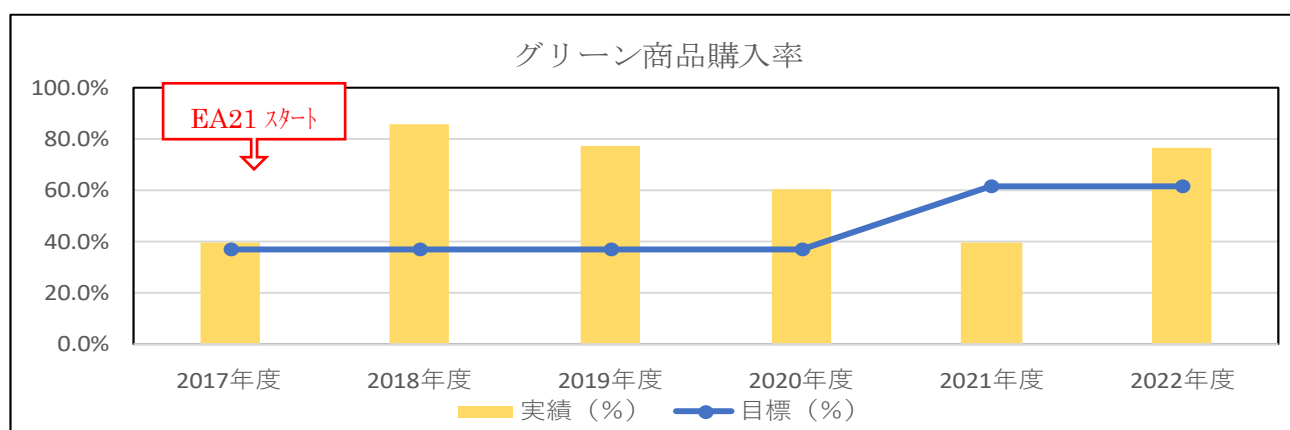


⑤グリーン購入推進の実績(事務所・工場)

- ・2022年度はグリーン購入の購入率も上まり、目標達成できました。
- ・引き続き、グリーン商品を意識した購入を進めます。

グリーン購入推進の年間推移グラフ

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
目標 (%)	37%	37%	37%	37%	62%	62%
実績 (%)	40.0%	85.6%	77.2%	60.6%	40.0%	77.0%



⑥化学物質の適正使用・適正管理の実績(サイト:事務所・工場)

- ・製作段階で使用する化学物質を含む塗料の購入量を管理しています。
- ・使用量の把握が難しいため、使用する分だけ購入し、年間購入量を記録しています。
又、管理表に安全データシートを管理、使用上の注意など掲示し、安全対策を心掛けています。

化学物質の適正使用・適正管理	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
各薬品を適切に管理し、無駄な購入、使用を減らす。	〇	〇	〇	〇	〇	〇
使用者に対してSDSの使用上の注意を厳守させる。	〇	〇	〇	〇	〇	〇

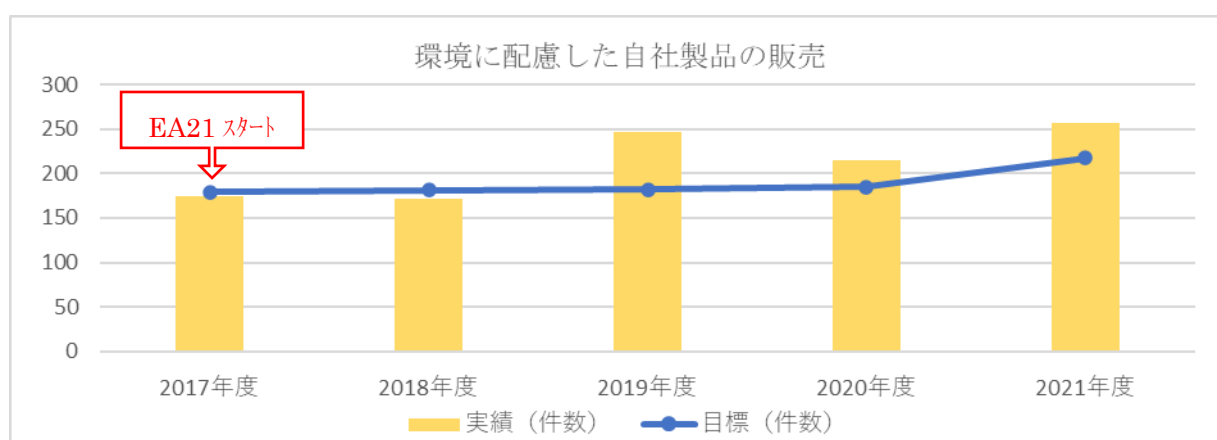


⑦環境に配慮した自社製品の販売・拡大の実績

- ・設計から製造、施工まで一貫性を持って請け負う弊社の強みを生かし、建築物の耐久性向上の為の提案などを行っています。
- ・また、地域環境に配慮した振動・騒音の軽減にも取組。現場では産廃0を目標とし、各現場で分別。5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)の推進を行っています。

環境に配慮した自社製品の販売・拡大

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
目標 (件数)	179	181	182	185	217	219
実績 (件数)	175	171	247	215	257	253



8.環境経営計画の取組結果とその評価

- ・環境経営計画の取組結果とその評価は以下のとおりです。
- ・各目標達成のため設定した活動項目は概ね良好な結果でした。
- ・目標未達項目がみられますので、現活動計画で充分なのかを今後検討していきます。

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		サイト区分	目標達成状況	活動項目	取組判定
(1)	軽油使用量の削減	建設現場	◎	車内の整理整頓を行い、軽量化に努める。	○
				タイヤの空気圧を定期的に確認する。	△
				車両点検をこまめに行いスムーズな運転を心掛ける。	○
(2)	ガソリン使用量の削減	事務所・工場	◎	段取りの良い打合せにて、無駄な行動をしない。	△
				急発進・急加速を行わない。	○
				タイヤの空気圧を定期的に確認する。	△
(3)	電気使用量の削減	事務所・工場	○	室温は「夏25～28度」「冬20～26度」の範囲で、適宜過剰にならないように努める。	○
				休憩室・トイレなどの電灯は使用時のみ稼働させる。	○
				電気機器は設定を見直し、適切な値の元取り扱う。	○
				パソコンのスリープ・主電源OFFは条件を明確にし、意識して行う。	○
				フォークリフトの急発進・急加速を行わない。	○

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標		サイト区分	目標達成状況	活動項目	取組判定
(1)	一般廃棄物排出量の削減 (その他可燃ごみ)	事務所・工場	△	分別の徹底によるゴミの減量。	△
				消耗品は詰め替え・補充ができる製品を優先する。	○
(2)	産業廃棄物のリサイクル率向上 (リサイクル率85%)	工場・建設現場	○	現場での産業廃棄物分別作業を協力会社を含めて徹底し、混合廃棄物ゼロを目指す。	○
				収集時での分別の確認と報告を徹底する。	○

3. 水使用量の削減

取組目標		サイト区分	目標達成状況	活動項目	取組判定
(1)	水使用量の削減	事務所・工場	△	水の使用場所には節水シールを貼り、節水に心がける。	○
				水漏れ等見つけた場合は早急に周知・処置する。	○

4. グリーン購入の推進

取組目標		サイト区分	目標達成状況	活動項目	取組判定
(1)	グリーン購入の推進	事務所	×	エコ商品の対象商品を積極的に取り入れる。	○
				エコ商品の購入金額を記録。	○

5. 化学物質の適正使用・適正管理

取組目標		サイト区分	目標達成状況	活動項目	取組判定
(1)	化学物質の適正使用と適正管理	工場	○	各薬品を適切に管理し、無駄な購入、使用を減らす。	○
				使用者に対してSDSの使用上の注意を厳守させる。	○

6. 環境に配慮した自社製品の販売・拡大

取組目標		サイト区分	目標達成状況	活動項目	取組判定
(1)	環境に配慮した自社製品の販売・拡大	事務所・工場	×	ホームページの商品紹介を拡充させる。	○
				得意先・仕入先を開拓していく。	○

備考) 目標達成状況判断区分 ◎: 120%以上 ○: 100%以上 120%未満 △: 80%以上 100%未満 ×: 80%未満 -: 判定不可

取組状況判断区分 ◎: よく実行されている ○: 実行されている △: 実行されているが十分ではない ×: 実行されていない
-: 判定できない、該当しない

9. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

(1) 環境経営目標

- ・次年度の環境経営目標は今まで通り 6 項目 13 目標で設定した中長期目標(2023 年度)を適用します。

環境経営目標(2023年度・16期)

環境経営目標	サイト区分	単位	基準年	単年度目標	中長期間目標		
			2020年度 (2020.3~2021.2)	2022年度 (2022.3~2023.2)	2023年度 (2023.3~2024.2)	2024年度 (2024.3~2025.2)	2025年度 (2025.3~2026.2)
※は売上増加倍数(当社の事業計画に基づく)			基準	1.23倍	※1.29倍	※1.35倍	※1.41倍
1. 二酸化炭素排出量の削減	事務所・工場	kg-CO ₂	56,833	68,506 (△2%)	72,033 (△3%)	74,605 (△4%)	77,107 (△5%)
	建設現場	kg-CO ₂	74,773	90,131 (△2%)	93,563 (△3%)	96,907 (△4%)	100,158 (△5%)
	全社合計	kg-CO ₂	131,606	158,638	165,596	171,512	177,265
(1) 軽油使用量の削減	事務所・工場	L	696	839 (△2%)	871 (△3%)	902 (△4%)	932 (△5%)
	建設現場	L	28,982	34,935 (△2%)	36,265 (△3%)	37,561 (△4%)	38,821 (△5%)
(2) ガソリン使用量の削減	事務所・工場	L	7,368	8,881 (△2%)	9,220 (△3%)	9,549 (△4%)	9,869 (△5%)
(3) 電気使用量の削減	事務所・工場	kWh	96,690	116,550 (△2%)	120,988 (△3%)	125,310 (△4%)	129,516 (△5%)
2. 廃棄物排出量の削減							
(1) 一般廃棄物排出量の削減 (その他可燃ごみ)	事務所・工場	t	1.67	1.64 (△2%)	1.62 (△3%)	1.60 (△4%)	1.59 (△5%)
(2) 産業廃棄物のリサイクル率向上	工場 建設現場	%	83.9	85	85	85	85
3 水使用量の削減	事務所・工場	m ³	309	306 (△2%)	303 (△3%)	300 (△4%)	297 (△5%)
4 グリーン購入の推進(購入金額の割合)	事務所	%	61.0	62	62	62	62
5 化学物質の適正使用・適正管理	工場	kg	適正使用・適正管理に努めます				
6 環境に配慮した自社製品の販売・拡大	事務所・工場	受注件数	215	219	221	224	226

備考) ・二酸化炭素排出量計算における購入電力の排出係数は、大和ハウス工業㈱の2019年度調整後排出係数(0.400kg-CO₂/kWh)を用いた。

二酸化炭素排出量の削減目標 = 基準年実績値 × 削減率 × 売上補正 ($\frac{\text{当該年の売上見込}}{\text{基準年売上}}$)

(2)環境経営計画

次年度の環境経営計画は、以下のとおりです。

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		サイト区分	活動項目	
(1)	軽油使用量の削減	建設現場	1	車内の整理整頓を行い、軽量化に努める。
			2	タイヤの空気圧を定期的に確認する。
			3	車両点検をこまめに行いスムーズな運転を心掛ける。
(2)	ガソリン使用量の削減	事務所・工場	1	段取りの良い打合せにて、無駄な行動をしない。
			2	急発進・急加速を行わない。
			3	タイヤの空気圧を定期的に確認する。
(3)	電気使用量の削減	事務所・工場	1	室温は「夏25～28度」「冬20～26度」の範囲で、適宜過剰にならないように努める。
			2	休憩室・トイレなどの電灯は使用時のみ稼働させる。
			3	電気機器は設定を見直し、適切な値の元取り扱う。
			4	パソコンのスリープ・主電源OFFは条件を明確にし、意識して行う。
			5	フォークリフトの急発進・急加速を行わない。

2. 廃棄物排出量の削減

取組目標		サイト区分	活動項目	
(1)	一般廃棄物排出量の削減 (その他可燃ごみ)	事務所・工場	1	分別の徹底によるゴミの減量。
			2	消耗品は詰め替え・補充ができる製品を優先する。
(2)	産業廃棄物のリサイクル率向上 (リサイクル率85%)	工場 建設現場	1	現場での産業廃棄物分別作業を協力会社を含めて徹底し、混合廃棄物ゼロを目指す。
			2	収集時での分別の確認と報告を徹底する。

3. 水使用量の削減

取組目標		サイト区分	活動項目	
(1)	水使用量の削減	事務所・工場	1	水の使用場所には節水シールを貼り、節水に心がける。
			2	水漏れ等見つけた場合は早急に周知・処置する。

4. グリーン購入の推進

取組目標		サイト区分	活動項目	
(1)	グリーン購入の推進	事務所	1	エコ商品の対象商品を積極的に取り入れる。
			2	エコ商品の購入金額を記録。

5. 化学物質の適正使用・適正管理

取組目標		サイト区分	活動項目	
(1)	化学物質の適正使用 と適正管理	工場	1	各薬品を適切に管理し、無駄な購入、使用を減らす。
			2	使用者に対してSDSの使用上の注意を厳守させる。

6. 環境に配慮した自社製品の販売・拡大

取組目標		サイト区分	活動項目	
(1)	環境に配慮した 自社製品の販売・拡大	事務所・工場	1	ホームページの商品紹介を拡充させる。
			2	得意先・仕入先を開拓していく。

10. その他の環境活動

(1) 太陽光パネルの設置

2013年11月に工場の広大な屋根を生かして、209枚の太陽光パネルを設置し、年間約49,441Whの発電になっています。

- ・太陽光は無限のエネルギーであり、設置する事だけで発電できる事やCO2や有害物質を一切排出しない事です。
- ・弊社では、定期的に清掃を行い、発電を妨げないように努めています。



太陽光設備の概要

連系する電力系統: 高圧一般配電線(三相3線、6.6kV、60Hz)

発電設備の種類: 太陽電池発電所

太陽電池容量: 52.25kW

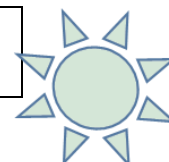
パワーコンディショナ容量: 45kW(10kw×4台、5kW×1台)

(モジュール板 209枚 H1650 W992) 1枚あたり 250W出力

逆潮流の有無: 逆潮流有り

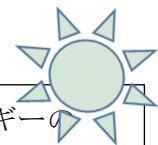
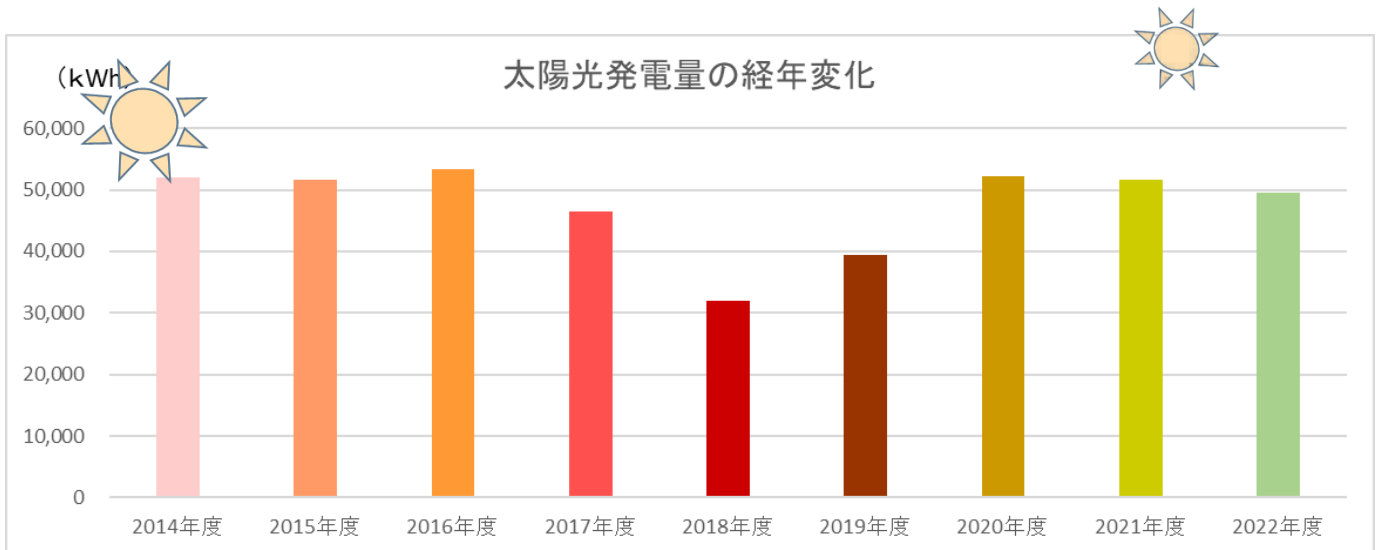
設置年月日: 2013年11月15日

2022年度の発電量 = 49,441kWh



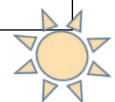
太陽光発電量(kWh)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
3月	4,477	4,283	4,894	5,041	2,360	2,206	4,645	4,313	5,163
4月	5,390	5,792	4,907	5,177	3,135	3,131	5,200	7,040	5,251
5月	7,367	6,529	6,816	6,709	3,424	2,290	7,256	4,823	6,294
6月	5,438	5,055	5,702	6,086	3,600	3,632	5,407	5,560	5,238
7月	5,057	5,113	5,612	4,133	3,646	3,900	3,910	5,670	4,600
8月	4,114	6,030	7,131	5,323	4,739	4,892	5,334	3,771	4,394
9月	4,714	4,969	4,001	3,253	2,344	4,321	4,741	4,828	4,361
10月	4,706	4,648	3,099	2,469	2,358	3,864	4,442	4,034	3,744
11月	3,099	2,803	3,159	2,653	2,033	3,303	3,331	3,104	3,359
12月	1,872	1,688	2,198	1,553	989	2,236	2,182	2,213	1,819
1月	2,864	2,013	2,776	1,688	1,669	2,375	2,425	3,118	2,471
2月	2,974	2,724	3,132	2,473	1,641	3,311	3,395	3,211	2,747
合計	52,072	51,647	53,427	46,558	31,938	39,461	52,268	51,685	49,441



- ・ 持続性可能な社会を目指すうえで、化石燃料に頼らない再生可能エネルギーの太陽光発電は二酸化炭素削減において有効な取組です。
- ・ また、世界的に見ても二酸化炭素を削減する取組は、国の政策としても取り組まれており、さらに意義のあるものだと感じています。

※2018年～2019年5月まで、太陽光発電の機器のトラブルに気づかず、発電量が落ちていましたが、2019年6月に修理を依頼し2020年度からは初年度の発電量まで回復し、本年度も安定して発電が行われています。



(2) 緊急避難訓練

2021年3月11日に緊急避難訓練を行いました。

想定した緊急事態

工場トイレ付近からの火災

対応策

1. 火災の対応策

- ① 必要な備品など
粉末消火器設置場所へ『消火器設備』と表記
- ② 緊急事態連絡
消防署119番への通報

2. 具体的な対応策

- ① 第一発見者は、直ちに付近にいる人に知らせると共に粉末消火器で初期消火活動を行う。
→ 第一発見者
- ② 皆に火災を知らせ『緊急事態連絡』
消防署119番へ通報する。
→ 第一発見者及び近くにいる者
- ③ 全従業員は、初期消火可能と判断される場合は、消火器にて初期消火する。
→ 全従業員
- ④ 二次火災を防ぐ為、可能なら電源盤の電源を遮断する。不可能ならば避難する。

3. 対応処置手順等

- ・避難場所は建物西側とし、人員の確認及びけが人の情報を報告する。

※外出先での火災等の災害に遭遇した場合は、避難終了後、事務所に所在と身の安全を報告する。



工場トイレ付近より出火と仮定
初期消火活動にあたる

2022年3月4日

11. 環境関連法規等の遵守結果

- ・2022年度（2022.3～2023.2）の事業活動で遵守すべき法令は以下のとおりで、遵守確認の結果、法令違反はありませんでした。
- ・また外部からの苦情や法令違反の指摘も過去3年間ありませんでした。

法令名称	要求事項	遵守状況
廃棄物処理法	産業廃棄物（委託）	○
	産業廃棄物（排出責任者）	○
	情報処理センターへの登録・確認	○
フロン排出抑制法	簡易点検の実地	○
労働安全衛生法	健康診断の実施	○
地球温暖化対策推進法	事業者の責務	○
グリーン購入法	事業者及び国民の責務	○

備考) 遵守状況の判定 ○：遵守 ×：不順守 —：該当なし

12. 代表者による全体の評価と見直しの結果

(1) 取組の全体評価

エコアクション活動を開始してから7年目となります。

環境に大きく影響する二酸化炭素の削減が目標より大幅に削減できた事は、今までの活動が少しずつ身につけている現れです。

よって環境経営システムが有効に機能していると思います。引き続き、エコ活動に取り組んでください。

(2) 見直しの結果

環境経営目標・環境経営計画変更の必要性はありません。



代表取締役 遠山 貴広